

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600377		
法人名	有限会社 ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス池尻		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字池尻887-1		
自己評価作成日	平成24年6月1日	評価結果確定日	平成24年9月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成24年8月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用を希望する高齢者にとって、本当に生甲斐溢れる施設づくりを標榜して事業所を開設し、10年目に到達致しました。私達職員にとっても日々勉強・利用者に教えられる事の多かったこれまでであると感じています。当事業所は池尻地区では唯一の入所系介護保険事業所であり地域の期待の声も高く、地域の方々から支えられて今日があると実感しております。今後は、これまで培ってきた多くの認知症ケアの事例やノウハウ・地域交流の実践事例を、育て頂いた地元や広く地域社会に還元すべく、これまで以上に多面的に地域社会と協力しながら、より多くの支援が必要な高齢者の方々に、最適の介護サービスが提供できるよう、努めて参りたいと願っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所以来地域との交流を継続しているが、ホームで開催していた恒例の七夕会は、今年度はホームの働きかけで、近隣の小学校体育館で開催されている。全入居者が参加し、立派な体育館に驚嘆するなど心地よい場となり、後日入居者のお礼状を持参している。この交流から、学校関係者の認知症や入居者に対する認識が変化する兆しも感じられる。また、入居間もない帰宅願望のある入居者の言動を、「その方にとってはホームはどう見えるのか」と客観的にアセスメントしたり、家族を入居者と一緒に医療機関まで送迎し、共に過ごしていただいたり、理念に掲げた「個人の尊厳を守り、その人らしい生活、穏やかな安心と満足ある生活、家庭的な楽しい雰囲気」の実践に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名

いきいきハウス池尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、長生きしてよかったと思って頂けるケア、が理念の根幹と理解している。事業所だけでなく地域との交流が生甲斐の提供に繋がると理解を深めている。	ホーム理念を玄関に掲示し、理念を実践するために、朝礼等で事務所に掲示されたケア目標を唱和している。管理者は職員に、機会ある毎にケア目標を説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者参加の地域交流が最大の使命であると職員全員が自覚し、日々のサービス提供を行っている。	恒例の七夕会は、今年度は近隣の小学校体育館で開催された。全入居者が参加し、入居者が書いたお礼状を後日小学校に持参している。このような取組みは、認知症や入居者への認識が変化するきっかけになりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年2回職員が、公民館で行われる家族介護教室での講師を務めている。平成24年2月の教室は転倒予防がテーマで、利用者も参加しながら集まった人達に講義を行って好評であった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では取組状況や意見の実践進捗状況は必須の項目としており、活発な意見が出ている。	家族代表、地域代表、行政担当者等の参加で定期的開催している。ホーム行事や家族の要望が検討され、会議録を整備している。お盆や餅つき等に併せて、日程を参加しやすいように変更している。欠席者には会議録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政とは日常的に連絡をし、報告・相談を行っている。アドバイスや協力も得やすい関係を築いている。	日頃より行政担当者と連絡を取り合っている。行政担当者から、独居の方の介護相談や入居相談がある。ホームから、空き状況の報告や取組み状況を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束5原則を十分理解し、管理者の判断によってその可否を決定する仕組みにしている。身体拘束廃止宣言を行い、研修や日々の教育を行っている。	「家に帰る」と頻回に訴え、玄関に座り込む入居者もあり、自宅まで徒歩で同行している。玄関にセンサーを設置し、常に職員が目配り、気配りをしている。「ちょっと待って」や「忙しい」と対応するのではなく、一旦手を止めて対応することを申し合わせている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修における教育のほか、ミーティングにおいて事例の検討会をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用や判断は管理者が一元的に行っているのが現状であるが、職員への教育を通じて実践できるようにすることが今後の課題である。	現在まで制度等の活用はない。随時対応できるように、成年後見制度に関するパンフレットを整備している。	成年後見制度と日常生活自立支援事業の内容や違いを理解し、窓口を紹介するためにも、事業に関するパンフレット等の整備や学習会の開催をお願いします。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際などに寄せられた意見等は、運営推進会議に報告し実現可能なものは実施するようにしている。	3ヶ月毎に家族会を開催している。家族から、玄関屋根や入浴用のリフトの設置、洗濯物の干し場の拡張等の要望があり、玄関屋根を設置している。家族訪問を、意見を伺う絶好の機会と捉えた対応をしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を吸い上げる努力をしているが、提案自体は少ない。ホールの飾り付けなど日常的な事項は職員の発意で行っている。	朝、夕のミーティングを利用し、日頃から職員の意見や提案を聴くようにしている。職員が代表者に直接、企画を相談することもある。職員が企画したお誕生会やお盆の手作り団子が実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法に照らしてオーバーワークのないように点検している。介護という仕事の大切さ、意義を理解させるよう努めている。また、処遇改善交付金を活用して、収入面の向上に生かしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職業能力に応じた採用方法を採用しており、職員採用についても可能な限り公平に行っている。最近では、職能有りとの判断で66歳と68歳の方の採用も行った。職員の有給休暇の取得奨励や指定休暇の確保、公民権の行使における配慮等を行っている。	ハローワークを活用し、職員を採用している。職員採用では、性別、年齢、資格にこだわらず、「心の資格」に重点を置き、面接では「介護のイメージ」を聞いている。調理師や訪問介護員の資格取得を支援したり、外部研修参加を推奨している。今回、認知症介護実務者研修やビジネスマナー研修に参加する職員もいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修を通じて行うほか、外部セミナーの開催があれば活用しながら啓蒙に努めている。	作成した年間研修計画に沿って、内部で研修を実施している。高齢者虐待防止マニュアルや人権に関する資料は事務所の目に付きやすい場所に整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修のほか、外部研修を積極的に利用している。階層別に取り入れている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	全国認知症グループホーム協会の全国大会に第1回から職員を派遣し、懇親会等を通じて情報交換を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを通じて、詳細に情報把握を行っている。職員の気づきが重要なポイントと認識し、表面的なことではなく真のニーズを掴むよう指導している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期のアセスメント段階である程度把握したことは、経過観察を通じて見直し、家族との話の中で改めながら必要があれば支援のあり方を変えている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	真のニーズの見誤りがないように努めながら、利用者各人に最適のサービス提供は何かを見極めるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相性や人間関係に合わせた仲間わけや席決めなどで、アットホームな関係を維持している。誕生日会は、利用者の意見を聞きながらどんな祝い方をするか話し合って決めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度は訪問して頂けるように仕組み作りを行っている。通院の支援を原則家族が行うなど。催事に際しては調理のボランティアをお願いしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族とも話し合い、可能な限りこちらから提案して行えるように支援計画を立てている。 懐かしい人とは手紙や季節のたより等の交流がある。	通夜や告別式に同行している。車を運転しない家族を入居者と一緒に医療機関まで送迎し、リハビリを受けている時間を共に過ごしていただくように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業や日々レクなど、支えあいを演出できるシーンを大切にしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅復帰や入院をしても支援を継続しており、利用者や家族との関係が途切れることがない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを通じて、詳細に情報把握を行っている。	入居間もない帰宅願望が強い入居者の言動を、「その方にとってはホームはどう見えるのか」と客観的にアセスメントしている。「気づいたらここにいた」と本人にしてみれば不本意な入居であった事を踏まえ、さらなる意向の把握に取り組みつつある。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを通じて、詳細に情報把握を行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを通じて、詳細に情報把握を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの意見や希望を計画に行かせるように勤めている。何気ない会話の中からヒントが攫めることなどもあり、話し合いは重要であると理解している。	アセスメントで得た情報や家族や職員から得た情報から現状に合った介護計画書を作成し、3ヶ月に1回、モニタリングや評価を行い、計画の見直しを行っている。	計画内容の共有し、日々実践するために、定期的なミーティングの開催をお願いしたい。職員の気づきや工夫を活かした介護計画を作成することで、職員もモニタリングしやすいと思われます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の変化、家庭環境の変化に対応し、入居施設にとっての多機能化に対応できている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのスーパーや商店等の協力を得られたり、無料の催事サロンなどを利用したり、小学校との交流を大切にしながら、実践している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者によっては受診科が多い方もおられるが、家族の協力が得られており対応できている。	協力医療機関から定期的は訪問診療を受けている。歯科は近隣で受診しやすく、眼科やリハビリ受診は家族に同行を願ひ、受診状況等の情報を交換している。家族が同行できない場合や緊急時は職員が受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の医療連携による看護師の訪問の他、医師の往診の際に看護師が同道し、細かな相談・支援を得られている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは日常的に連携をとっている。4年前に入院した利用者の週1回の訪問支援を、病院と関係を保ちながら(ケアキュアセミナー参加等)おこなっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご家族への説明を行ってきたが、その後は、状態の変化に事業所に対応することのみで、疾病憎悪となった場合は入院されており、家族との協働までには到っていない。	現在まで看取りはない。日頃から協力医療機関とは十分な連携がとれ、状況に応じて対応している。重度の下肢の浮腫を治療するため入院した入居者が、家族や入院先からの連絡もなく、突然家族がホームに連れて帰って来ている。入居者や家族の意向を冷静に伺いながら、今後の対応を考慮している。	入居時や随時、作成している意向確認書を活用しながら、家族との協働による重度化や終末期の支援を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期の研修によるほか、救命救急士の資格を持つ職員が勉強会で講師になり、マッサージや呼吸法について教えている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜ともにを想定した避難訓練を、年2回実施している。予め緊急避難場所を設定し職員に周知している。	広報される災害マップにホームの掲載を提案している。消防署の協力で避難訓練を実施しているが、初期消火や居室のドアを閉めること、手早い入居者の誘導等が、今後の課題となっている。	災害に備蓄すべき備品を検討し、台帳や備品の整備をお願いします。また、災害マップへの掲載の実現も期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修やミーティングでも再三取り上げており、実践できている。	ホーム理念に「個人の尊厳」を謳っている。入居者の不満や怒りの興奮した言葉にも冷静に耳を傾け、人格を尊重したやさしい口調で対応している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本は自己決定、の方針を貫きサービス提供をおこなっている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを示している為、ある程度は施設の決まりに沿って行動しているが、利用者が今こうしたいという思いには応えられていると思う。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際には自分で服を選んで頂くほか、整髪や身だしなみ等には日常気を配っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共同生活の意義が利用者にも浸透していて、楽しく行っている。	職員も入居者と同じ食事を同じテーブルで摂っている。片麻痺、手指の震せん、視覚障害等のある入居者もそれぞれのペースで食事をしている。「ここの食事は美味しい」と連発する入居者もあり、ほとんどの入居者が全量摂取である。下膳やテーブルを拭く男性入居者もいる。毎月、外食を楽しんだり、誕生会では希望のメニューで祝っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が作る月間メニューを学校給食の管理栄養士に監修して頂き、バランス面での改善を取り入れている。水分は1600CC/日を目安に年間通じて取り組んでいる。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の協力を得て、定期的な口腔衛生及び治療を行っている。食後の口腔ケアは利用者に合わせた内容でおこなっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	適切に行っている。特に当ホームでは、排泄の自立に重点を置いており、入所時はオムツ類が必要であった方も早期に必要なでなくなるような支援ができています。	トイレとドアに大きく掲示している。紙パンツ着用は1名の入居者のみで、見守りや一部介助でほとんどの入居者がトイレで排泄している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は個々人の状態を把握できていて、その時々に合わせて対応が適切にできている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の日時は決まっているが、希望に合わせて柔軟に対応している。	週3回の入浴を支援している。大きめの浴槽が設置され、1名ずつゆったりと入浴している。窓を開けると緑の景色が目に入り、入浴剤などを入れて「温泉のようだ。」と好評である。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活ケアの場面で、具体的な希望に沿って支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬の手帳を職員が管理し、症状を主治医やホームドクターに伝える事により、症状把握と安全な服薬確認ができるように支援体制ができています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントを通じて、本人の希望・嗜好は把握しており、適切に取り組みができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は計画的におこなっているが、家族の協力を得ながら支援している。近所の小学校の運動会では、児童らのお迎えで運動会に参加し、楽しくお弁当を食べる。	外出の年間計画を作成し、地域行事や花見、外出に出かている。ホーム入り口に祀ってある地蔵様のお参りを日課としたり、ホームの愛犬クロと一緒に周辺を散歩している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理での金銭所持はおこなっていない。毎日の買い物には利用者交代で参加し、好きな物を買ひ、レジで計算しながら支払をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できる限り支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の模様替えを行うなど、季節感の演出に努めている。	家族の要望で玄関屋根が設置されている。玄関前の水盤にメダカが飼われ、プランターに植えられたゴーヤと瓢箪が居間のグリーンカーテンになり、訪問者や入居者の目を楽しませている。玄関と居間はアコーデオンカーテンで仕切り、食事をゆっくりと摂っている。ソファやテーブルもおかれ、壁に展示された作品等をゆっくり眺めることができる。空調は管理され、防臭にも配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースは、場面に応じてカーテンで仕切れるようにしている。座席を仕分ける工夫をしたりソファの利用を勧めたりしながら居心地のよい工夫を行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの調度や備品を持ってきてもらい、居室内は希望通りの演出をおこなっている。	コの字型に並んだ居室は、氏名が掲示されている居室やない居室もあるが、場所の間違い等はない。各居室とも供え付けのベットが設置され、写真や自作の作品を飾り、持ち込まれたタンスやいす、日用品が使いやすいように置かれている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援からの観点を最大限取り入れる努力をしている。		